



「椅子」小島基デザイン、虎尾光藝堂製作／昭和二十五～三十五年頃／個人蔵

企画展 11月15日(土)～12月14日(日)

2 鳥取の表現者file.06 **流体ー松本文仁・森田しのぶ**

企画展 2015年2月21日(土)～3月22日(日)

3 **知られざるプロダクトデザイナー小島基と戦後鳥取の産業工芸**

3 シリーズ「学校と博物館をつなぐ」③ 絵の中に何を見る? ～小学校図画工作研究会より

4 **[自然]** 資料紹介 ヒガシナメクジウオ液浸標本

5 **[人文]** コラム 鳥取県の狛犬データベースって? -鳥取県立博物館ホームページにて公開中-
資料紹介 池田光仲肖像画

6 **[美術]** 新収蔵品紹介 小早川秋聲てんげあきゆん《天下和順》

コラム 鳥取県博物館協会の今とこれから

7 **[山陰海岸学習館だより]** 『日本海』は無かった?

8 **[お知らせ]** 講座・観察会・毎週土曜はアートの日!

平成26年度企画展 鳥取の表現者file.06 流体—松本文仁・森田しのぶ

「シリーズ 鳥取の表現者」は鳥取にゆかりのある、現在活躍中の作家や近年亡くなられたけれども活発な制作をしていた作家を、年齢、ジャンルを問わず広く取り上げ、紹介しようというシリーズ企画展です。6回目となる本年度は、現在県内外で活躍する松本文仁と森田しのぶ、二人の作品をご紹介します。

松本文仁(まつもと・ふみひと)は、1959年境港市生まれ。1992年に行動展に初入選し、2005年に第60回記念賞を獲得し会員推挙。第8回リキテックスビエンナーレ入選。鳥取県美術展での大賞、県展賞など受賞6回を数えます。現在は特定の会派には所属せず、個展やグループ展等で作品を発表し続けています。テーマは「運命論的な死」。25歳の時に友人の死に直面し、人生を断ち切る「運命」という抗うことのできない流れを実感したといいます。その経験は、例えば作品「黒い犬」(1985年 カンヴァス・油彩)となり、友人の人生を断ち切った運命である死の象徴として描かれました。その後、同様のテーマで多くの大作が描かれます。それぞれに物語があり、主人公となる人物を決めた後に、周囲にはその人に関わる事柄を配置します。金属や板を貼り付けて作った分厚く堅固なマチエール。時には貼り付けた金属を腐食させたり、板をバーナーで焦がしたりしてイメージする画面を作りこんでいきます。



松本文仁《おまえたちの白地図》2005年 鳥取県立博物館蔵

森田しのぶ(もりた・しのぶ)は、1990年自由美術に初入選。新人賞を受け、2002年に会員推挙されています。川上奨励賞受賞。第57回鳥取県美術展では県展賞を受賞。カンヴァスに幾重にも絵の具を重ねながら、一切のマチエールを許さないかのように平らでなめらかな絵肌を作り出します。その流れるような曲線は、見る者に「生」や「性」をイメージさせます。服飾デザインも手がけ、自身の名前のブランドも立ち上げる森田。「絵画制作も衣服のデザインも違和感なく自分の中にある。どちらもやわらかく命を包み込むような感じを表現している」と話します。なめらかな曲線と、浮遊するたくさんの球体が描かれた青い絵画をご存知の方も多いのではないのでしょうか。森田はモチーフを大きく変えることなく、少しずつ変形し進化させながら繰り返し描き続けてきた抽象表現の作家です。けれどもごく初期の作品は具象的な表現といえます。例えば1999年の作品「生命への回想」。現在の表現の始まりともいえるこの作品を見ることは、作家が何を捨て、何を追及してきたかを改めて知る機会となるでしょう。

「運命という流れの中で訪れる抗えない死」をテーマとする松本と「何もない宇宙空間のようなところから何かが生成してくるイメージ」と語る森田。「分厚いマチエール」と「どこまでもなめらかな絵肌」。「鈍く光る金属が溶けこむ重たい色調」と「流れ揺らめく青い曲線」。「運命的な死と



松本文仁《黒い犬》1985年 個人蔵

繰り返される命の象徴として人物などを描く、具象的な表現」と「具体的なモノからイメージし、省略を繰り返すことでとどりに着いた抽象的な表現」。描く動機として最初にあるイメージだけでなく、材料や表現方法に於いても二人の作品は対照的に見えます。けれど二人が同じように見つめ、描こうとするのは、とどまることなく流れていく時間とやがてたどり着く無の世界。画面には、定位置に収まることを拒むような流動する形が現れます。様々な出来事と出会いながら、「生まれることとやがて土に還ること」を意識し描いてきた時間。描かれてきた作品は、画面に向かって繰り返されてきた自己の存在への問いの痕跡ともいえるのではないのでしょうか。企画展「流体」では、二人の作家の、これまであまり発表の機会がなかった初期の作品から現在の作品までの四半世紀にわたる画業を回顧します。

(美術振興課 佐藤 真菜)



森田しのぶ《生命への回想》2009年 個人蔵



森田しのぶ《生命への回想》1999年 個人蔵

知られざるプロダクトデザイナー小島基と戦後鳥取の産業工芸

小島基(こじま・もとひ 大正9年～平成11年)は、富山県に生まれ、戦後に鳥取県などで活躍したプロダクトデザイナーです。戦前に京都市立絵画専門学校で学んだ小島は、昭和25年から昭和38年まで鳥取県工業試験場にデザイン専門の技師として在職。まだ「デザイン」という考え方が定着していない時代の鳥取県内のさまざまな作り手(木工家具、木工ろくろ、竹細工、漆工など)に対し、精力的にデザイン指導を行いました。なかでも、小島がデザインし、鳥取家具工業株式会社が製造して全国に供給された曲木椅子などの家具類はいまだに高く評価されています。常に時代を先取りし、業界に新しい方向性を提示しながら新製品開発に寄与してきたという小島は、鳥取県の産業工芸界の振

興に重要な役割を果たしたキーマンであったはずですが、昭和39年に関西へ移ったことや、当時指導を受けた職人らも亡くなりつつあることもあってか、現在ではその名を知る人も少なくなっています。

これまで、鳥取県の工芸史上最も特筆すべき動向として評価されてきたのは、吉田璋也が主導した戦前戦後の新作民藝運動でした。しかし、鳥取県の戦後の産業工芸展開史をつづろうとした時、前述した活動の意義からも小島の存在を見逃すことはできないでしょう。

よって本展では、鳥取県工芸史の編纂に資するという視点のもと、小島の仕事の概要を、県内の職人たちが制作した試作品等の現物資料や、小島らが遺した記録写真を中心に紹介しま

す。さらに、小島が鳥取で活動した時代を中心に、その前後の鳥取および日本の産業工芸の動きにも目を向け、国と地方のデザインの動向を比較、再確認できるよう、各時代の代表的な作例や、小島が関心を寄せた有名デザイナーの作品なども紹介します。なかでも、将来デザインを学びたいと考えている方々にはぜひご覧いただきたいと思います。(美術振興課 三浦 努)



デザイン作業中の小島基(写真提供:小島京子氏)

シリーズ「学校と博物館をつなぐ」③

絵の中に何を見る? ～小学校図画工作研究会より

6月の中旬、北条小学校にて行われた図画工作研究授業に参加しました。参観したのは2年生の教科書収載の題材「見つけたよ いいかんじ」。身近にある材料を活用して絵をつくるというものです。授業には、文科省の前・図画工作教科調査官の奥村高明氏(現・聖徳大学児童学部学部長)も招かれていましたが、改めて前調査官の観察力と視点の幅広さに感銘を受けました。奥村氏は、次の作品を手掛けた児童に、途中こう尋ねています。

奥村:ソウ見たことある?

児童:ある。

奥村:そのソウは、いつ作ろうと思ったの?

児童:紙を見つけたときに。

→このやり取りによって、ソウを描くためにグレーの紙を選んだのではなく、材料のもつ特徴から表現したいモノを発想したことがわかりました。これは題材に込められた意図に合致していると言えます。また、使用した紙は、児童が自宅から持ってきたとのことです。

そして、ソウの体や余白部分に貼り付けられた綿の意味についても訊いています。

奥村:この綿は、何を表してるの?

児童:これは「雲」、これは「水」、そしてこれは「毛布」です。

→これは、1つの材料を別の意味をもった様々なモノに見立てられるこの児童の優れた発想力を示していると言えるでしょう。最後に画面右端に雲を付け足して、画面のバランスをとっていました。制作プロセス全体を見て初めてわ

かってくることもあります。さらに、毛布の中の人物は、髪型や服装から、児童自身を表していたこともわかりました。

講評の中で奥村氏は、こう説明しています。

奥村:(完成した)絵から読み取れるのは、せいぜい1割。この作品の場合、材料は決して多くなく、見方によっては【B】の評価にもなるかもしれないが、「作品がこの子にとってどんな意味をもつのか」を考えた場合、児童の思いや材料へのアプローチは間違いなく【A】の状況ですよね。

児童の体験したことをしっかりと理解し、児童に寄り添って絵を見たときに、その作品に込められた思いや児童の能力を発見することができたのです。まさに、視点の置き方によって作品の印象や評価さえも変わることを実感した、目から鱗の出来事でした。

表現や鑑賞の授業など、絵に触れる機会の多い先生方にとっては、作品のどこに注目するのかが重要な問題です。できるだけ多くの視点の引き出しをもっておきたいものですが「(絵のことは)よくわからない」と、鑑賞の授業に苦心されるケースも多いようです。このような場合は、博物館・美術館あるいは専門の学芸員に相談してみてもいいかもしれません。当館においても、作品を前にしたギャラリートークの他に、特に小学生については、児童の素直な反応を引き出す鑑賞の方法を相談の上実施しています。先生方にとっても、鑑賞授業の切り口を増やすきっかけとなるかもしれません。当館を含め、是非お近くの博物館・美術館をチェックし、大いにご活用ください。

(美術振興課 山本 亮)



児童の作品

ヒガシナメクジウオ液浸標本



ヒガシナメクジウオ。2003年5月13日、鳥取市賀露沖で採集。全長4.4cm。左が前方。

写真は、ナメクジウオという動物の標本です。名前の通りナメクジのようにも見えますが、しなやかな体で活発に泳ぐことができます。また、ウオといっても魚ではありません。それではいったい、何者なのでしょう？実は、私たち脊椎動物(背骨をもつ動物:哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・魚類)の起源を語る、とても興味深い動物なのです。

ナメクジウオ類は体長4cm前後の細長い体で、両端がとがった柳の葉のような形をしています。頭部として明確に区別できる部分はなく、目・鼻・耳もありません。体の前端付近に口があり、その後方には多数のエラ孔(鰓裂)が並びます。そして体内には背骨がなく、かわりに「脊索」という1本の軸が前後に走っているのが大きな特徴です。

この脊索は、脊椎動物では胚発生の初期に一時的に形成されます。それはやがて消失し、脊椎(背骨)に置き換わります。それに対してナメクジウオ類では、脊椎がつくられず、脊索が残った状態で生まれるのです。このことからナメクジウオ類は、脊椎動物の祖先が背骨を獲得する“直前”の姿を保っている存在として、古くから注目されてきました。近年ではゲノム塩基配列の解読も行われ、脊椎動物進化の解明に大きく貢献しています。

ナメクジウオ類は温帯～熱帯域に分布し、世界で約30種、日本では5種が確認されています。その多くは比較的浅い海にすんでいて、普段は海底の砂に体をうずめ、口がある部分を露出させて生活しています。口にはあごがなく、開きっぱなしの状態

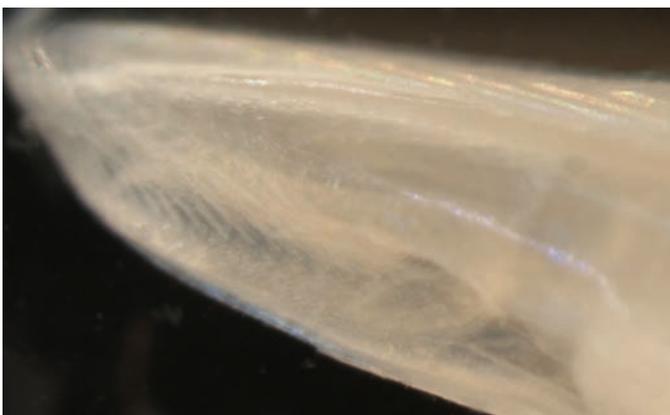
で、「噛む」ことはできません。口の後ろにある鰓裂で水流を起こし、口から海水を吸い込むことで呼吸をしつつ、海水中に浮遊するプランクトン等をこしとって餌としています。

このような生活のため、生息にはきれいな砂地が必要です。泥がたまるような場所では呼吸や採餌がうまくできず、生きていけません。近年では各地で海洋汚染や埋め立て工事などにより個体数が激減し、絶滅が心配されています。

日本での生息地は房総半島以南がおもであり、日本海側での記録はごくわずかです。鳥取県では長い間確実な記録がなかったのですが、2003年に鳥取市賀露沖で、写真の標本が得られました。鳥取県栽培漁業センターが海底の砂に生息する動物を調査している際に採集されたもので、ヒガシナメクジウオ *Branchiostoma japonicum* という種類です。これをもとに『レッドデータブックとっとり改訂版』(2012年)では「情報不足(DD)」として掲載され、今後のさらなる調査が望まれています。

小さくて、けって派手ではないナメクジウオですが、脊椎動物進化の謎を解く手がかりを秘め、またきれいな海の指標ともなる生き物です。このナメクジウオがいつまでも鳥取の海で暮らしていけるよう、見守っていききたいと思います。

(学芸課 一澤 圭)



ヒガシナメクジウオの口。何本もの細長い突起が口を覆っていて、砂粒などの異物が入り込むのを防ぐ。

鳥取県の狛犬データベースって？

—鳥取県立博物館ホームページにて公開中—

鳥取県立博物館では、県内の石造狛犬の特徴を把握するため、平成22年から調査を開始し、約100名の調査員によって、現在まで692組の狛犬を確認しています。

この度、その成果を広く紹介するため、鳥取県立博物館のホームページで「鳥取県の狛犬データベース」を公開しました。ぜひご活用下さい。



鳥取県狛犬データベースのトップ画面

<http://digital-museum.pref.tottori.jp/contents/komainu/index.html> (閲覧にはフラッシュプレイヤーが必要です。)

平成26年現在、公開している狛犬の所在地の内訳は、東部224組(鳥取市161、岩美町7、八頭町41、若桜町7、智頭町8)、中部146組(倉吉市50、三朝町26、湯梨浜町23、琴浦町42、北栄町5)、西部322組(米子市90、境港市3、日吉津村0、大山町59、南部町49、伯耆町27、日南町34、日野町36、江府町24)です。

次に検索方法を紹介いたします。まず上に掲載した「鳥取県の狛犬データベース」のトップ画面の「検索画面へ」をクリックして下さい。すると、下のような検索条件を指定する画面にうつります。



検索条件を指定する画面

ここでは、以下の6つの条件で、調べてみたい狛犬を検索することができます。(複数の条件を組み合わせての検索も可能です。)

- 1 所在地(鳥取県東部・中部・西部、あるいは鳥取市・八頭町など)
- 2 制作時期
(「1751-1800」「1801-1850」など)
- 3 寄進者(個人、連名、団体など)
- 4 寄進理由(祈願、記念など)
- 5 形状
 - ・型(出雲(丸尾)、尾道など)
 - ・ポーズ(座、構、玉乗り、その他など)
 - ・持物(玉、子、玉・子、無し、その他など)
 - ・材質(石、陶器、金属、その他など)

6 キーワードを入力(例:八幡神社、来待石、川六などの単語を入力する。)



資料詳細の画面

条件を決めて検索をすると、上のような資料詳細画面が表示されます。「詳細」をクリックすると神社の住所、寄進者、寄進年など調査内容が表示されます。「地図」をクリックするとGoogleマップが表示されます。

この「鳥取県の狛犬データベース」を立ち上げることができたのは、調査に御協力して頂いた調査員の方々のおかげです。実際に神社に行くと、長い石段が続き、狛犬を撮影するのは難しい場所があったり、読み取りにくい銘があったりと、様々な苦勞が伝わってきました。あらためて調査に協力して頂いたみなさんに感謝を申し上げます。(学芸課 千葉 さをり)

資料紹介

池田光仲肖像画

写真の肖像は、初代鳥取藩主の池田光仲(1630-93)です。鳥取藩の歴史を紹介するうえで、欠かすことができないこの肖像画は、光仲が亡くなった翌日に、側近の橋本直彩が顔かたちを写して完成させたものとされています。

ところが、近年の調査によって、この肖像画は橋本直彩が描いたオリジナルではなく、死後170年がたった文久2年(1862)に製作された複製品の可能性が高いことがわかってきました。

その根拠としては、池田家の菩提寺である興禅寺(現・鳥取市栗谷町)が、文久2年5月に光仲肖像の複製を願い出て許可を受けたことが、藩の記録に残されている点があげられます。この事実は肖像画を収めている絹袋

に「文久二年壬戌霜月新調 興禅常住」と記されていることで裏付けができます。また肖像には、江戸時代前期のものとは考え難い新しい時代の顔料が使用されており(絵画史の専門家である門脇むつみ氏のご教示による)、この点も文久2年の製作とする見方の補強材料となっています。

こうした点から、死後間もなく描かれたものと考えられてきた光仲の肖像は、興禅寺が製作した幕末の忠実な写しであると考えられます。ちなみに興禅寺の肖像が鳥取藩の資料として伝来した理由は、維新後に新政府の指示で改宗を迫られた池田家が、菩提寺にあった肖像画を回収したためでした。

肖像画は、顔立ちや容姿に関心が

注がれますが、製作された時期や伝来の経緯に着目すると、肖像を違った見方で楽しむことができるでしょう。(学芸課 来見田 博基)



池田光仲肖像画<部分>

新 収 蔵 品 紹 介

小早川秋聲 《天下和順》^{てんげわじゆん}

正確な人数を数えることは、もはや不可能に近い。画面には朝鮮の民俗衣装である白色の韓服を着た大勢の人々が所狭しに描かれている。長く連なり楽しげに踊る人々の傍らには、酒が入っているのであろうか、大きな甕が点在して置かれ、觴さかづきを口にあてる者の姿も見受けられる。

本作は日本画家・小早川秋聲(1889(明治22)年~1974(昭和49)年)によって描かれた珍品である。若き日の秋聲は中国・欧米各地を頻繁に訪れ、東洋美術と西洋美術の研究を続け、内省的な人物画を多く発表していた。そして戦争の激化に伴い、従軍画家としてたびたび大陸に派遣され、終戦まで数多くの戦争画を手がけた。しかし、その大半は戦意高揚を目的としたものではなく、傷ましい戦争の現実を兵士に近

い視点で表現したものであり、近年画業の再評価が進められている。

「天下和順」と題された本作は、秋聲71歳の1956(昭和31)年に制作された。「天下和順」とは無量寿経の「天下和順 日月清明 風雨以時 災厲不起 国豊民安 兵戈無用 崇徳興仁 務修礼讓」に由来し、本作でも平和を希求する秋聲の強い想いが込められているかのようだ。従軍画家として戦争を経験した秋聲は、1953年に朝鮮戦争の休戦協定が結ばれたことを受け、戦争により傷ついた朝鮮半島の恒久平和を願い、執拗に人々の姿を描き込んだのではないかと考えられる。型破りでユーモラスな発想に基づく奇想な作品を多く描いた秋聲らしい作品のひとつである。

(美術振興課 林野 雅人)



一九五六(昭和三十一年) 五六・四×二二九・〇cm
小早川秋聲《天下和順》 絹本金地着色金泥

コ ラ ム

鳥取県博物館協会の今とこれから

県立博物館が開館してからすでに40年以上の年月が経過しました。しかし博物館と関連して、ほぼ同じ歴史をもつ組織が存在することはあまり知られていません。それは鳥取県博物館協会という組織です。やや固い名前なので、活動内容を想像することが難しいですが、わかりやすくいえば友の会です。特典としては企画展への入場料が無料となり、博物館の広報物、あるいはすでに80号を超える協会報を受け取ることが出来ます。毎年春には総会と講師を招いての講演会を開催し、昨年度は久しぶりのバス旅行も企画いたしました。

しかし長い歴史の反面、会員の高齢化が進み、近年、活動が停滞していることも否めません。以前は博物

館の学芸員が少なかったこともあって、会員同士が展示や資料について紹介したり解説したりする研究的な活動も多かったのですが、近年、多くの美術館博物館の友の会はより具体的なメリットが求められるようになっています。大学生以下の学生は県立博物館の展覧会に無料で入場できるため、特典と重なってしまったことも若い人たちの入会が少なくなった理由の一つでしょう。協会の活動は会員の会費によって支えられていますから、会員の減少は活動にも影響します。

今年度は博物館のあり方についても様々な角度から検証が進められることとなる予定ですが、これに合わせて、博物館協会の活動についても

かなり大がかりな見直しを進めていきたいと考えています。現在、何人かの理事の方にお声をかけて、協会のあり方検討のためのワーキンググループを立ち上げ、協会と博物館の関係についても新たな角度から点検したいと考えています。社会施設としての博物館は社会の中でさまざまな世代や考え方の人々と関係を作っていきます。その一つとして、博物館協会とは今後もよい関係を結びんでいきたいと願っています。入会は随時受け付けています。関心をおもちになった方は博物館内の博物館協会事務局へお気軽にお問い合わせ下さい。

(美術振興課 尾崎 信一郎)

『日本海』は無かった？

多くの人にとってなじみのある「日本海」はかつて存在していませんでした。日本列島の成り立ちを見ると、およそ2500万年前以降に大陸の一部であった日本列島が大陸から離れていき、大陸との間に海水が入り込んで日本海が誕生したと考えられています。それまで日本海は無かったのです。

日本列島が大陸から離れていったことを知る手がかりを現在の日本海の姿から見つけることができます。日本海の海底地形を見ると、日本海のほぼ真ん中に「大和堆」、「北大和堆」からなる高まりを見ることができます。その高まりをはさんで、日本海の北半分には、水深3000mを超える「日本海盆」、南東と南西にもそれぞれ水深2000mを超える「大和海盆」、「対馬海盆」という深海の大平原が広がっています。「大和堆」の最も浅いところが水深236mであることから、深海の平原から眺めるその高まりは比高2500mを優に超える巨大な海底山脈です。

「大和堆」、「北大和堆」はもともと大陸の一部で、日本海拡大による日本列島の分離とともに大陸から離れていったと考えられています。その西側の形

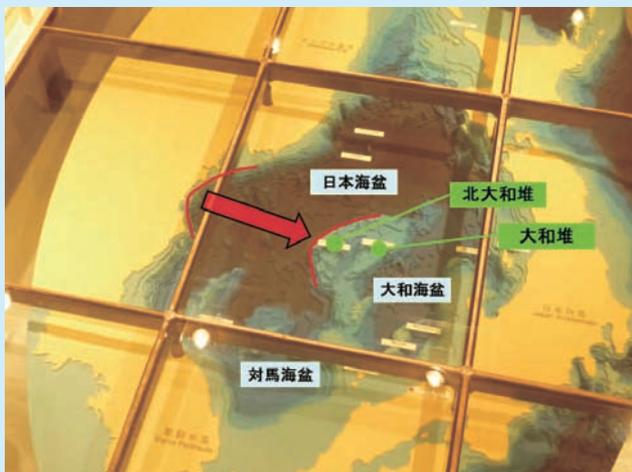
状をよく見ると、大陸の日本海東岸の湾入部の形状とピタリと一致することから、これらの高まりがもともとそこに収まっていたことを想像することができます。

山陰海岸学習館の展示室の中央には、日本海の海底地形模型があり、ガラスの上に乗って海底地形の特徴を観察することができます。また、日本列島が大陸にくっついていた時代の岩石や誕生したばかりの日本海にくらしていた生きものの化石などを展示し、日本海形成についてわかりやすく紹介をしています。私達にとってなじみの深い「日本海」がどのように形成されたのか、その誕生の秘密を山陰海岸学習館でぜひ学んでいただきたいと思います。

(山陰海岸学習館 山田 佳範)



7000万年前からはじまる日本海形成を紹介するコーナー



日本海の海底地形模型
大和堆・北大和堆の西側形状と大陸の湾入部の形状が一致することがわかります。

■ 普及活動一覧(平成26年度下半期)

《野外観察会》

山陰海岸ジオハイキング～摩尼山、因幡の信仰の山に登る～

日時:10月5日(日)午前9時～正午

場所:摩尼山(鳥取市)

対象:小学生～一般(小学生は保護者同伴) 定員:20名(先着順)

申込開始:9月21日(日)～、電話のみ

《自然講座》海藻おしばを作ろう!

日時:12月7日(日)午前10時～正午

場所:岩美町立渚交流館

対象:小学生～一般(小学生は保護者同伴) 定員:20名(先着順)

申込開始:11月23日(日)～、電話のみ

※申込、問合せは山陰海岸学習館(電話:0857-73-1445)へ

鳥取県立博物館付属

山陰海岸学習館

San'in Kaigan Nature Museum



■入館料:無料

■開館時間:9時～17時

■休館日:毎週月曜日

国民の祝日の翌日(月曜日が祝日の場合は翌平日に振替休館)

年末年始(12月29日～1月3日)

※7月20日～8月31日は毎日開館

【お問い合わせ】〒681-0001

鳥取県岩美郡岩美町牧谷1794-4

電話:0857-73-1445

FAX:0857-73-1446



INFORMATION お知らせ

講座・観覧会・毎週土曜はアートの日! LECTURE・FIELD STUDY・EVENT

■自然部門 ■歴史・民俗部門 ■美術部門(毎週土曜はアートの日)

2014 10 OCT.	《ワークショップ》 市内アート探検2014	■10月4日(土) 13:30~15:30 / (現地) ■高校生~一般 / 20名 / 500円 ※申込受付:9月19日(金)~、電話のみ先着順
	《歴史講座》 「鳥取こちずぶらり」でまち歩きin鳥取	■10月11日(土) / 13:00~16:00 / 市内 ■一 般 / 10名 / 要申込み / 無料 ※申込受付:9月11日(木)~、電話のみ先着順
	《アートシアター》 「アトニー・ゴムリー-彫刻プロジェクトin葉山」(DVD)	■10月11日(土) 14:00~14:40 / 講堂 ■高校生~一般 / 250名 / 無料
	《講演会》 『因幡志』の語る「古代」の因幡	■10月12日(日) / 14:00~15:30 / 講堂 ■一 般 / 230名 / 申込不要 / 無料
	《野外観覧会》鳥取県立大山自然歴史館共催 きのこを調べる会 外部講師:長澤栄史	■10月18日(土) 10:00~14:00 / 大山寺周辺(西伯郡大山町) ■小学生~一般(小学生は保護者同伴) / 30名 / 無料 ※申込受付:9月25日(木)~、電話のみ先着順
	《アートシアター》 映画「鎌倉なんとかなレ」(DVD)	■10月18日(土) 14:00~14:50 / 講堂 ■高校生~一般 / 250名 / 無料
	《アートセミナー》 日本近代洋画のあけぼの	■10月25日(土) 14:00~15:30 / 会議室 ■高校生~一般 / 40名 / 無料
	《スペシャルアートシアター》 映画「ふたりのイムズ」(DVD)	■11月1日(土) 14:00~15:30 / 講堂 ■高校生~一般 / 250名 / 無料
	《野外観覧会》 化石をさがせ!	■11月2日(日) 10:00~15:00 / 上地(鳥取市国府町) ■小学4年生~一般(小学生は保護者同伴) / 20名 / 無料 ※申込受付:10月16日(木)~、電話のみ先着順
	《講演会》 「古代因幡の豪族と相撲人・武士の成長」	■11月2日(日) / 14:00~15:30 / 講堂 ■一 般 / 230名 / 申込不要 / 無料
2014 11 NOV.	《スペシャルアートシアター》 「アイ・ウェイウェイは謝らない」(DVD)	■11月8日(土) 14:00~15:40 / 講堂 ■高校生~一般 / 250名 / 無料
	《野外観覧会》 おちばの中のモンスターをさがそう!	■11月9日(日) 13:00~16:00 / 湖山池青島(鳥取市) ■幼児~一般(小学生以下は保護者同伴) / 20名 / 無料 ※申込受付:10月16日(木)~、電話のみ先着順
	《アーティストトーク》講師:松本文仁氏・森田しのぶ氏 企画展「流体-松本文仁・森田しのぶ-」	■11月15日(土) 14:00~15:30 / 企画展会場 ■高校生~一般 / 定員なし / 要観覧料
	《歴史講座》 古文書を楽しむ(前期)	■11月16日(日) 14:00~15:30 / 会議室 ■一 般 / 20名 / 要申込み / 無料 ※申込受付:10月16日(木)~、電話のみ先着順
	《野外観覧会》 しいのみをさがそう!	■11月22日(土) 10:00~12:00 / 樽倉公園(鳥取市) ■幼児~一般(小学生以下は保護者同伴) / 20名 / 無料 ※申込受付:11月6日(木)~、電話のみ先着順
	《ワークショップ》企画展関連 講師:森田しのぶ氏 「布に遊ぶ」	■11月22日(土) 11:00~15:00 / 会議室 ■高校生~一般 / 20名 / 無料 ※申込受付:11月7日(金)~、電話のみ先着順
	《歴史講座》 古文書を楽しむ(前期)	■11月23日(日) 14:00~15:30 / 会議室 ■一 般 / 20名 / 要申込み / 無料 ※申込受付:10月16日(木)~、電話のみ先着順
	《アーティストトーク》講師:松本文仁氏 企画展「流体-松本文仁・森田しのぶ-」	■11月29日(土) 14:00~15:00 / 企画展会場 ■高校生~一般 / 定員なし / 要観覧料
	《野外観覧会》 はじめてのバードウォッチング	■11月30日(日) 9:00~12:00 / 湖山池(鳥取市) ■幼児~一般(小学生以下は保護者同伴) / 20名 / 無料 ※申込受付:11月6日(木)~、電話のみ先着順
	《講演会》 「海の古墳」を考える	■11月30日(日) / 14:00~15:30 / 講堂 ■一 般 / 230名 / 申込不要 / 無料
2014 12 DEC.	《アーティストトーク》講師:森田しのぶ氏 企画展「流体-松本文仁・森田しのぶ-」	■12月6日(土) 14:00~15:00 / 企画展会場 ■高校生~一般 / 定員なし / 要観覧料

2014 12 DEC.	《ワークショップ》企画展関連 講師:松本文仁氏 「削って磨いてオブジェをつくろう」	■12月13日(土) 13:00~16:00 / 会議室 ■小学生~一般 / 20名 / 無料 ※申込受付:11月28日(金)~、電話のみ先着順
	《民俗講座》 鳥取県の民話を聞かす	■12月14日(日) / 14:00~15:00 / 歴史民俗展示室 ■一 般 / 30名 / 申込不要 / 要入館料
	《ワークショップ》 「キラキラキララ・光であそぼ!」	■12月20日(土) 14:00~16:00 / 会議室 ■小学生~一般 / 20名 / 無料 ※申込受付:12月5日(金)~、電話のみ先着順
	《民俗講座》 しめ飾りを作ろう!	■12月21日(日) / 13:30~15:30 / 会議室 ■一 般 / 20名 / 要申込み / 無料 ※申込受付:11月21日(金)~、電話のみ先着順
	《ギャラリートーク》 「コレクション展IV」	■1月10日(土) 14:00~14:30 / 展示室 ■高校生~一般 / 定員なし / 要観覧料
	《ワークショップ》ジュニア県展コラボ企画 「モシャモシャ探検隊!」	■1月17日(土) 10:00~16:00(12:00~13:00を除く) / 展示室 ■小学生(4~6年)~一般 / 100名 / 要観覧料 ※材料がなくなり次第終了
	《スペシャルアートシアター》(アーティスト:村上隆監督作品) 「めめめのくらげ」(DVD)	■1月24日(土) 14:00~15:20 / 講堂 ■幼児~一般 / 250名 / 不要
	《歴史講座》 古文書を楽しむ(後期)	■1月25日(日) 14:00~15:30 / 会議室 ■一 般 / 20名 / 要申込み / 無料 ※申込受付:12月25日(木)~、電話のみ先着順
	《スペシャルアートレクチャー》 武蔵野美術大学教授 三澤一実氏	■1月31日(土) 14:00~16:00 / 講堂 ■高校生~一般 / 250名 / 無料
	2015 1 JAN.	《歴史講座》 古文書を楽しむ(後期)
《ギャラリートーク》 「コレクション展V(前期)」		■2月7日(土) 14:00~15:30 / 展示室 ■高校生~一般 / 定員なし / 要観覧料
《アートセミナー》 「アートと社会」		■2月14日(土) 14:00~15:30 / 会議室 ■高校生~一般 / 40名 / 無料
《民俗講座》 わら草履を編もう!		■2月15日(日) / 13:30~16:30 / 会議室 ■一 般 / 20名 / 要申込み ※申込受付:1月15日(木)~、電話のみ先着順
《トークセッション》 「戦後鳥取の産業デザインを語る」		■2月21日(土) 14:00~15:30 / 講堂 ■高校生~一般 / 250名 / 無料
《特別講演会》石村眞一氏(九州大学名誉教授) 「日本の曲木家具の歴史」		■2月28日(土) 14:00~15:30 / 講堂 ■高校生~一般 / 250名 / 無料
《ギャラリートーク》 「小島基展」		■3月7日(土) 14:00~15:00 / 企画展会場 ■高校生~一般 / 定員なし / 要観覧料
《歴史講座》 伯耆往来をあるく 浜村~青谷		■3月8日(日) / 9:30~13:00 / 講堂 ■一 般 / 20名 / 要申込み ※申込受付:2月10日(火)~、電話のみ先着順
《アートシアター》 「シャルロット・ペリアン」(VHS)		■3月14日(土) 14:00~15:00 / 講堂 ■高校生~一般 / 250名 / 無料
《アートセミナー》 「小島基と戦後鳥取の産業工芸との関わり」		■3月21日(土・祝) 14:00~15:30 / 会議室 ■高校生~一般 / 40名 / 無料
2015 2 FEB.	《ギャラリートーク》 「コレクション展V(後期)」	■3月28日(土) 14:00~14:30 / 展示室 ■高校生~一般 / 定員なし / 要観覧料
	《公開研究会》 「県民と学ぶ最新の鳥取藩研究」III	■3月28日(土) / 13:00~16:00 / 講堂 ■一 般 / 230名 / 申込不要 / 無料

特別パネル展示 「変わりゆく郷土 定点写真で見るととり1968-2013」 2015年2月21日(土)~3月22日(日) 休館日/なし 観覧料/常設展入館料が必要です。

昭和43(1968)年から平成25(2013)年まで、5年ごとに同一地点を撮影した航空写真と地上写真を、パネルで展示紹介します。45年間の郷土の変化を一目でご覧いただけます。(県内4ヶ所でも開催)

※特に記載のないものは申込不要です。※講座によっては材料費などが必要な場合があります。詳しくはホームページなどでご確認ください。※託児サービス・手話通訳・要約筆記にも対応いたします。希望される場合は3週間前までにご連絡ください。※小学生以下は保護者同伴でご参加ください。※申し込み・お問い合わせは学芸課(0857-26-8044)または美術振興課(0857-26-8045)へ。

鳥取県立博物館ニュース No.18

平成26年(2014年)10月1日発行
編集・発行 鳥取県立博物館
住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地
TEL 0857(26)8042(代)
FAX 0857(26)8041
URL <http://www.pref.tottori.jp/museum/homepage.htm>
E-mail hakubutsukan@pref.tottori.jp

■入館料:常設展/一般180(150)円
()内は20名様以上の団体料金
■開館時間:9時~17時(入館は16時30分まで)
4月~10月の企画展開催中の土、日、祝日は19時まで開館(入館は18時30分まで)
■休館日:毎週月曜日(祝日の場合は翌平日が休館日)
国民の祝日の翌日(土、日、祝日の場合を除く)
年末年始(12月29日~1月3日)
※具体的な休館日等は、ホームページでご確認ください。



お客様の満足の先へ...
MORRIX
株式会社モリックスジャパン
TEL 0857-23-3641
本社 鳥取市南栄町203-6
倉吉店 倉吉市下田町870 中瀬ビル3F
<http://www.morrix.co.jp/>

引越しは日通
0120-154022